

災害時の危機管理事業所としても機能

第一貨物株式会社 新



挨拶する武藤社長

第一貨物（武藤幸規社長）は、新潟市東区寺山の新潟支店をリニューアルし、17日に竣工披露した。24日から本格稼働にはいる。

新潟支店は

74年6月に開業して39年が経過し、建物が老朽化・狭隘化したことから支店敷地内に新築したものの。また、一昨年の東日本大震災の教訓から、日本海の運行ルートの重要性が再認識され、危機管理事業所としての役割も担う。

新潟支店の敷地面積は2万2070平方メートルで、新支店は鉄骨造り2階建て、延床面積は2866・11平方メートルと旧施設の1・42倍の面積となった。1階は事務所とプラットフォームで2階は会議室や仮眠室となる。雪害に備え2ト・4ト車の集配プラットフォームはインドアで、大型車が横付けできる西側には、幅12・5メートルの庇を備える。天井高は8メートルで、床荷重は1平方メートルあたり1・5ト。プラットフォームと事務所の照明には6万時間の長寿命LED照明を採用し大幅な省エネを実現した。セキュリティにはデジタル監視カメラを24台設置した。なお、土地の一部と建物は、系列の太平興業から

の賃借。

同支店の稼働にとまない、同社では三条・長岡の2事業所との集配エリアを見直し、新潟市秋葉区や阿賀野市、小千谷市を新たに新潟支店のエリアに加えた。配置車両は、2ト車13台と4ト車34台、大型車41台、トラクタ3台、トレーラー7台。

竣工披露の挨拶に立った武藤社長は、「隣にある旧新潟支店は、74年につくり39年が経ち、老朽化してお客様にご迷惑をおかけしていた。新支店は、集配をインドアにするなど降雪期の作業環境を考えたものにした。中越・加越地区のサービスを、よりお客様のニーズに沿ったものにする」とともに、災害などの危機に対応できる施設とした」と述べた。また、乾杯の音頭に立った安達英雄常務は、「7年後の東京オリンピックの主な施設は東京湾岸にあるが、ここにはたくさん流施設もあり、2カ月間、東京港に荷が挙がらない状況になるので、新潟が元気になるように、その期間には新潟港を使った」と国交省に話した」と挨拶し祝宴に入った。



はたくさん流施設もあり、2カ月間、東京港に荷が挙がらない状況になるので、新潟が元気になるように、その期間には新潟港を使った」と国交省に話した」と挨拶し祝宴に入った。